

# 技術・家庭科が考える学びの価値

川崎 裕典 原田 久美

## 1 技術・家庭科が考える学びの価値

### 生活や社会の課題を解決するとうれしい

## 2 学びの価値の設定理由

### (1) 教科の特性から

現代の社会では、生産年齢の人口の減少やグローバル化の進展、技術革新などにより、社会や雇用環境は急速に変化しており、予測困難な時代となっている。中学校学習指導要領(平成29年告示)解説技術・家庭編によると、このような時代における学校教育には、「様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになること」が求められており、技術・家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒の育成を目指すことが示されている。

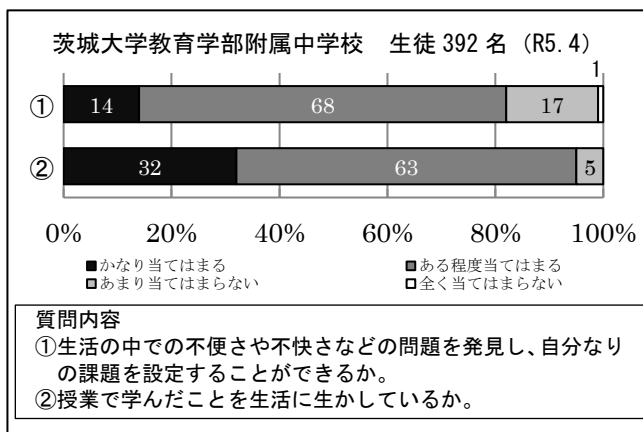
以上のことを踏まえて、技術・家庭科が考える学びの価値を「生活や社会の課題を解決するとうれしい」とした。生活や社会の中で困難な課題に遭遇したとき、既習事項を生かして解決方法を考え、実践することで「課題を解決できてうれしい」という達成感や成就感を得ることができると考えた。また、実践活動の評価・改善を検討することで、次の学びに向けてさらに主体的に取り組む態度を育むことをねらいとしている。

そこで、現在や将来を見据えて、生活や社会の中から一人一人の生徒が課題を見だし、他者と対話をしたり協働したりすることで、自分の考えを明確にしたり表現したりすることができるようにしたいと考える。そして、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造しようとする実践的な意欲を育み、「課題を解決できてうれしい」という肯定的な感情が芽生え、さらなる実践意欲につなげたいと考え、学びの価値を設定した。

### (2) 生徒の実態から

技術・家庭科で目指す学びの価値の実現に向けて、本校の1～3学年の生徒を対象として、意識調査を実施した(資料1)。課題設定の力(①)は82%の生徒が肯定的な回答であった。また、学びを生活に生かす経験(②)については、95%の生徒が肯定的な回答であった。そこで、「学びを生活に生かしたときの気持ち」について質問したところ、「うれしい」61%、「楽しい」58%、「すごい」41%と肯定的な感情を抱く生徒が多いことが明らかとなった。しかしその一方で、「無感情」10%の回答も見られた。また、生活の中で生かしていない理由について質問したところ、「時間がない」23名、「何をしたらいいかわからない」19名、「やる気がない」11名、「ほかの人がやってくれる」9名、「うまくできない」7名と様々であった。

以上のことから、生活を工夫し創造しようとする実践的な意欲を高める教科の特性を生かし、生徒が習得した知識及び技能を生活の場で生かすことができるように、課題設定から解決までの一連の学習活動を工夫していく必要があると考える。特に、問題を見だし課題を設定する段階において、それぞれの生徒の実態や考え方を踏まえた学習とすることで、「課題を解決できてうれしい」と感じる生徒がより増加していくように、手立てを講じていきたい。



資料1 意識調査

### 3 授業者が考える学びの価値を伝える工夫

#### (1) 技術分野について

##### ① 題材計画の工夫

技術分野での「技術の見方・考え方」とは、技術の開発・利用の場面で用いられる、生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化することである。「技術の見方・考え方」は、中学校3年間の中で身に付けさせる必要がある。そこで、学年や学習内容に応じて、「技術の見方・考え方」を働かせる場面を、1年生では個人の生活の範囲から、2年生では地域の人々の生活、3年生では将来へと段階的に広げて、繰り返し問題解決的な学習を展開することで、生徒が課題解決による成功体験を積み重ねることができるよう、題材計画を工夫する。

##### ② シミュレーション教材の工夫

生徒が、生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定して解決策を構想し、製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら具体化し、実践を評価・改善することのできる力を養っていくためには、「ものづくり」の各段階において、生徒の発達段階に応じた教材を用いることが有効的だと考える。そこで、模型を用いて実験・観察・試作等を繰り返し行わせて、その過程を記録させることを通して、生徒が試行錯誤しながら解決策を具体化し、達成感や満足感を味わうことができるように工夫する。

#### (2) 家庭分野について

##### ① 題材の工夫

家庭分野での「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは、生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することである。生徒が、生活や社会に係る問題を見極め、課題を設定し、解決することができる資質・能力を育成するためには、生徒の発達段階に応じて見方・考え方を働かせることができる適切な題材を選定する必要がある。そのため、問題が生徒にとって身近となるように、家庭分野に係る見方・考え方の視点を生徒の実態に応じて地域や社会・家庭、実践期間を長期・短期・中期とし、教科等横断的な学習の充実を図ることで、題材を工夫する。

##### ② 実践的な態度を育てるための工夫

家庭分野での学習を通して、生徒が学びの価値を実感するためには「既習事項を生活や社会で実践すること」が欠かせない。実践的な態度を育むために、家庭分野では問題解決的な学習の一連の学習過程が重要であると考えた。「解決方法の検討と計画」の段階では、解決の見通しをもって計画を立てる場面を設定し、生活の課題について多面的・多角的に捉え、解決方法を検討できるようにする。そして、「課題解決に向けた活動実践」の段階では、地域や社会・家庭とのつながりを意識して実践する。最後に、「実践活動の評価・改善」では、課題の解決に向けて実践・調査したことを振り返り、考察したことを発表し、他者からの意見を参考にして改善策を検討することで、次の学習への意欲付けとする。このような一連の学習過程を行うことで、生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを感じて満足感を得られるようにする。

##### ③ 教材・教具の工夫

###### ア ICTの活用

生活や社会に係る問題を見極め、課題を設定する場面や課題の解決方法を考える場面、実践・調査した内容を振り返ってまとめ、発表する場面でICTを活用する。瞬時に考えを共有したり、視覚的に示したりすることで、よりよい解決方法を考えたり、「思考力、判断力、表現力等」の育成が期待できる。また、生徒一人一人が自分の学習状況に応じて学習を進めることができるため、個に応じた課題設定や解決方法の検討など学習をすることができる。

###### イ ワークシートや学習形態の工夫

課題の設定、計画、実践、評価・改善という一連の流れがわかるワークシートとすることで、生徒が学習の見通しができるようになり、学習の計画が立てやすくなったり、学習した内容を振り返ったりしやすくなる。また、ワークシートを家庭へ持ち帰ることで、学校での学習の様子が家庭にも伝わり、実践意欲へとつながるようにした。

学習形態の工夫として、題材の中で思考を深めたい時間にジグソー法を取り入れ、意図的に対話する場面を設定する。メンバーが得た知識を相互に働かせて、生活の問題を発見したり、よりよい解決方法を考えたりできるように、協働的に話し合う機会とした。